

令和 4 年度

一般会計決算に係る主要な施策の成果等報告書

1. 西いぶり広域連合一般会計予算の執行と成果の概要

(1) 一般会計補正予算の状況 () は、当初予算額及び補正後予算額を示す。

(単位 千円)

区 分	補 正 額	補 正 の 主 な 内 容
当 初 予 算 R4. 2. 18 議決	(7, 149, 178)	
補正予算第1号 R4. 5. 24 専決 (R4. 8. 31 承認)	13, 642 (7, 162, 820)	臨時給付金システム改修、健康管理システム改修、 不燃・粗大ごみ運搬業務委託
補正予算第2号 R4. 8. 31 議決	26, 121 (7, 188, 941)	システムフォント標準化対応経費、福祉システム改修、 窓口業務支援システム連携対応経費、上下水道 料金システム改修、不燃・粗大ごみ運搬業務委託
補正予算第3号 R4. 9. 7 専決 (R5. 2. 20 承認)	6, 383 (7, 195, 324)	健康管理システム改修、臨時給付金システム改修
補正予算第4号 R4. 11. 10 専決 (R5. 2. 20 承認)	—	債務負担行為設定（施設運転保守管理等業務委託料）
補正予算第5号 R5. 2. 20 議決	52, 456 (7, 247, 780)	健康管理システムライセンス追加対応経費、ごみ処理 施設等維持管理経費、施設運転保守管理等業務委託料 繰越明許費設定（健康管理システムライセンス追加 対応経費） 債務負担行為設定（共同電算用システム等保守業務 委託）
補正額合計	98, 602	

(2) 歳入歳出予算の執行結果

予算現額との比較で、歳入では、翌年度への繰越事業の未収入特定財源を除くと 25, 793 千円の減収となりました。これは、日本容器包装リサイクル協会からの拠出金収入等があったものの、歳出で不用額が生じたことにより関係市町負担金が減少したことなどによるものです。

歳出では、繰越明許費 1, 329 千円を除き、26, 591 千円の不用額が生じました。この主な要因は、予算額に比べ、共同電算に係るシステム改修委託料の減少などによる情報処理費の減、西胆振地域廃棄物広域処理施設における灯油代の単価下落と使用量減などによる中間処理施設運営費の減などによるものです。この結果、実質収支額（決算剰余金）は、798 千円となりました。

(3) 債務負担行為

令和4年度に債務負担行為を設定した事項について、契約締結等による令和5年度以降の支出額は次のとおりです。

(単位 千円)

事 項	限度額	令和5年度以降 支出額	支出期間	備 考
ブルドーザー更新	25, 000	18, 448	令和5年度から 6年度以内	

施設運転保守管理等業務委託料	1,090,290	1,056,229	令和5年度	
共同電算用システム等保守業務委託	272,200	265,579	令和5年度	

(4) 繰越事業

① 翌年度への繰越事業

令和5年度に繰り越す事業は、次のとおりです。

(単位 千円)

区分	款	事業名	繰越額	左の財源内訳		
				既収入 特定財源	未収入 特定財源	一般財源
繰越明許費	情報処理費	情報管理システムライセンス追加対応経費	1,329		分担金及び負担金 1,329	

(5) 主要施策の成果概要

① 西胆振地域廃棄物広域処理事業

ごみ処理施設の令和4年度のごみ搬入量は、前年度の可燃ごみ38,142.75トン、不燃・粗大ごみ7,756.77トン、合計45,899.52トンから、可燃ごみ37,315.50トン、不燃・粗大ごみ7,614.26トン、合計44,929.76トンとなり、約1,000トン、2.0%の減量となりました。これは、主として人口の減少(1.0%減)に伴う家庭系ごみ量の減によるものと考えられます。

② 最終処分場運営事業

最終処分場の令和4年度のごみ埋立量は脱塩残渣1,468.41トン、処理不適物等2,077.53トンの合計3,545.94トン、覆土は229トンでした。

③ リサイクルプラザ運営事業

令和4年度の資源ごみ処理量は、缶類340.22トン、びん類782.97トン、ペットボトル421.40トン、合計1,544.59トンで、アルミ缶、スチール缶の売払で68,121千円、また日本容器包装リサイクル協会からの有償入札拠出金及び再商品化合理化拠出金で24,839千円の収入がありました。ペットボトルの処理では、421.40トン全量を日本容器包装リサイクル協会への引き渡し(指定法人ルート)としました。

危険ごみの処理量は96.06トンで、スプレー缶類の処理に伴う破碎金属ごみの売払で203千円の収入がありました。

環境学習施設では、和こものづくりなど各種体験学習講座を行い、施設見学と合わせて2,306人の利用がありました。

④ 新中間処理施設整備事業

新中間処理施設の令和6年10月の供用開始に向けて、施設の設計及び建築確認申請等を行いました。令和4年度より本体工事に着手しています。令和5年度中には本体工事を完了し各種調整と試運転を開始する予定です。

⑤ 余熱利用施設等運営事業

げんき館ペトトルにおいては、午後 1 時から 8 時までの一般利用のほかに、午前中の専用利用では、指定管理者による健康増進・ダイエットを目的としたアクアエクササイズ教室や水泳教室の開催など利用拡大に努めました。利用者数は、温水プール 10,836 人、体育館 9,565 人、多目的室 25 人の合計 20,426 人となり、4,156 千円の利用料金収入がありました。

⑥ 共同電算システム運用事業

共同電算システムの運用では、新型コロナワクチン追加接種事業に対応するため健康管理システムの改修や、コロナ禍における原油価格物価高騰等総合緊急対策に伴う、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金、子育て世帯生活支援特別給付金に対応するための各種システムの改修のほか、マイナポータルと基幹システムのオンライン接続を実施し住民の利便性の向上及び地方公共団体の行政運営の効率化を実現するために必要となる申請管理システムの機能整備、医療制度改革関連法の成立に伴う重度医療システムの改修など各種制度改正等へ対応しました。

2 主要な施策の成果

(1) 一般会計

款	目	事業名	決算額	財源	
				特定	地方債
				国道支出金	地方債
情報処理費	情報処理費	西いぶりデータセンター運営管理経費	20,524		
		共同電算システム運用経費	697,369		
		西いぶりデータセンター整備事業費	103,031		
ごみ処理費	中間処理施設運営費	中間処理施設管理運営経費	1,724,778		
	最終処分場運営費	最終処分場管理運営経費	44,813		
	リサイクルプラザ運営費	リサイクルプラザ管理運営経費	67,355		
	中間処理施設建設費	新中間処理施設設計・建設モニタリング業務委託料	44,880	7,144	
		新中間理施設設計・建設技術支援業務委託	7,832		
新中間処理施設整備事業費		4,287,140	1,262,022		
土木費	余熱利用施設等運営費	26,977			

内 訳		事業等実施の成果概要	
源	一般財源		
その他			
	20,524	データセンターの維持管理	
	697,369	システム保守業務委託	11件
		機器保守業務委託	5件
		制度改正等対応業務委託	23件
	103,031	システム導入業務委託	1件
		情報セキュリティ対策機器更新	外
183,957	1,540,821	ごみ搬入量	44,929.76t
		可燃ごみ	37,315.50t
		不燃・粗大ごみ	7,614.26t
		周辺環境モニタリング（大気環境）	
17,621	27,192	ごみ埋立量	3,545.94t
		脱塩残渣	1,468.41t
		処理不適物等	2,077.53t
		覆土量	229t
		残余容量	958,411m ³
67,355	0	資源ごみ処理量	1,544.59t
		缶類	340.22t
		びん類	782.97t
		ペットボトル	421.40t
		（ペットボトル処理の内訳）	
		指定法人ルート	421.40t
		独自ルート	0t
		危険ごみ処理量	96.06t
		使用済み乾電池処理量	40.65t
		環境学習施設利用者数	2,306人
		和こものつくり等	1,902人
		施設見学	404人
	37,736		
	7,832		
	3,025,118		
161	26,816	げんき館ペトトル利用者	20,426人
		温水プール（自主事業受講者含む）	10,836人
		体育館（自主事業受講者含む）	9,565人
		多目的室・研修室・健康情報室	25人